

# 矢崎電線工業が社名変更

## 矢崎総業発足

### 競争力強化の布陣なる 生産四社を傘下に集約

第23回矢崎電線工業株主総会は、さる十六日開催。話題となっていた「新社名矢崎総業」案を審議、可決。ここに古い矢崎電線工業株式会社のなつかしい名前が消え、八月二十一日から新社名の矢崎総業株式会社（英名ヤザキ・コーポレーション）として発足することになった。資本金一億円。矢崎貞美社長、安西一太郎副社長以下十二役員が新たに選任された。同時に従来の電線の製造部門（沼津製作所、裾野工場）を分離し、矢崎電線の全額出資による新会社「矢崎電線株式会社」（資本金五千円）を設立した。

エネルギー需要拡大傾向にある矢崎グループを、系統的に集約、独立採算の強化とともにスッキリした形につくりかえ、将来の激しい国際競争に対する完備な布陣をしいたが、矢崎総業であるといえる。これによって、矢崎総業（資本金一億円）を筆頭に、傘下に計子会社の形で生産四社（矢崎電線（五千円）、矢崎計器（一億円）、矢崎部品（五千円））およびパンコックのタイ矢崎電線（一億八千万円）がある。なお、お総業発足の理由と新組織の内容については、樋口総務部長が発表した要旨は、下記の通りである。

#### 独立採算がとれる形に

樋口総務部長談  
一、矢崎グループの製造品目線の拡大にもない旧来の販売部門としての「矢崎電線」という社名が不適当になった。  
一、今後いかなる業務を行っても、半永久的に社名変更の要がない。  
一、製造部門四社を傘下に入れ、それらの独立採算制を強化し、自由化に備える。直轄の販売も同様独立採算制を確立する。（ただし従業員給与は全社的であることはもちろんだが、少くとも成績の良否は正しく考えるべきである）  
一、いわゆるドンブリ勘定を捨てて個々の損益を探究し、原因を明確にしなければならぬ。それらがやりにくいような組織に改善された。

新装なった矢崎総業本社 文字通り矢崎グループ総本山

また総業の今後の業務としては①関係会社の経営管理。業務的には四社製品の一年販売、重要資材の一括購入、その他の対外的な業務を担当。②総力を結集して新製品の開発、研究。矢崎テクニカル・

#### 総業新役員をご紹介

◆ 総業発足、世界のヤザキをめざし猛進せんとする  
◆ 約六千の矢崎マンの目は、この十四人の首領にきびしく注がれることであろう。「頼みマス」の意をこめてニュースが送る新役員の名簿：（文責記者）

◆ 矢崎貞美社長（53才）



五円七十銭をフトロコロに15才の春、単身長野より上京、苦学。昭和4年自動車電線販売。16年矢崎電線工業創立。以来強い信念と経営手腕で今日を築いた風雲児。従業員から神の如くしたわられていて、趣味は仕事だと三百六十五日をハッスル。

◆ 安西一太郎副社長（52才）  
江戶っ子、26年日本自動車計器（矢崎の前身）の取締役就任。29年専務。身だしなみの



良い君子だが、シャープな頭脳で社長を補佐して活躍。熱

#### 全社あげて合理化へ 多角経営の欠点をなくす

##### 社長 総業を語る

矢崎社長談

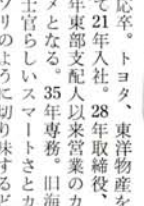
多角経営の最大の欠点は、とかくバラバラになりやすいことである。これをうまく集約して一本の強力体制にするのは、なかなか困難である。しかし、そうした経営の合理化、刷新を行ってこそ世界自由競争に勝つのである。これから矢崎総業が中心となってこの問題にあたってゆこうというわけである。

すべてが急を要している。生産は今後ますます専門の製造技術を進めないと、他に遅れてしまう。一方売

術論に「プロフェッサー」の称号を受けたロマンチスト。  
◆ 前田一夫専務（45才）



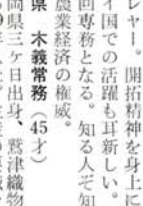
慶応卒。トヨタ、東洋物産を経て21年入社。28年取締役。33年東部支配人以来営業のカナメとなる。35年専務。旧海軍士官らしいスマイルとさかみソリのように入り味するどい戦略家。理論派である。



◆ 樋口滋司専務（46才）  
長野の産片倉工業から20年入



社。26年取締役、33年常務となり総務、経理、生産、営業何でもこなすオールラウンドプレイヤー。開拓精神を身上にタイ国内での活躍も耳新しい。今回専務となる。知る人ぞ知る農業経済の権威。



◆ 木義常務（45才）  
静岡県三ヶ日出身、豊津織物から19年入社。生産の要職を歴任。25年取締役、35年常務専務。派手な紳士、矢崎協会の一本化を見事に実現。信

◆ 吉岡 馨専務（44才）  
山口県熊毛郡出身、岩武商事



に邁進する陣頭指揮ぶりは大きな抱擁力をもっている。  
◆ 邑松久太郎専務（49才）  
東京生まれ、三菱重工労働課長から松和物産へ、24年入社



驚津、尾久、鼠田の所長を歴任。29年取締役、35年専務。口は悪いが腹は良いの江戶っ子の長所短所を備えた現分豪放ながら細い配慮も忘れぬ。中大法卒。



◆ 加藤泰夫取締役（54才）  
山形米沢市出身、米沢高等工



から21年入社。大阪支店長、支配人をへ、29年取締役、35年常務。派手な紳士、矢崎協会の一本化を見事に実現。信

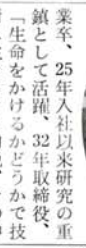
◆ 大房信治取締役（38才）  
東京都江東区大島町の出身。



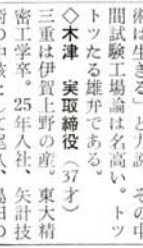
電気技術者として18年入社。32年技術部長、35年取締役。36年沼津製作所長。冷静な思考と積み上げたアイデアに生きたる知性派の第一人者。



◆ 加藤泰夫取締役（54才）  
山形米沢市出身、米沢高等工



中から片倉工業秘書課長をへ18年入社、22年取締役、生産営業、総務部長を歴任、29年矢崎保発足して担当専務。趣味である音楽論で説く和の精神は有名。社長代理として沙外にも活躍する円熟の長老。



◆ 田名瀬 保監査役（52才）  
東京生まれ、14年入社、戦争



下の島津で活躍、カストロのヒゲツラで矢崎会活動の陣頭に立ち31年監査役、一つ一つの精神の愛国の士。